



広島国際学院
創立78年



全日本大学野球選手権大会・開会式（神宮球場）
撮影＝工学部電気電子工学科教授 河野健次

自動車整備士試験で1級合格者

特集・立町キャンパス	2-3
主任教授就任にあたって	4
高校教頭就任にあたって	4
はじめましてー新任教職員挨拶	4-5
新しい音響実験室もお目見え	工学部 6
大学院へ7人進学	情報学部 7
アース・デーイベント	現代社会学部 8
1級自動車整備士合格の快挙	短期大学部 9
高校から発信	高等学校 10
入学宣誓式	11
夕暮れコンサート	11
英吉利風説書	12
留学生の声	12
卒業生頑張る	13
私の大学生活	13
広島六大学野球で優勝・全国へ	14-15
より質の高い教育へ研鑽の日々	16
生徒の交通安全活動に感謝状	16

広報

第62号

平成17年7月1日発行

特

集

立町キャンパス

—地の利を活かし多彩な事業を展開—



サロンは学生や市民の憩いの場に

1 入館者が2万人を突破

立町キャンパスは、新しい大学像を創造したいという葉佐井前学長の情熱に後押しされて、2年前の平成15年9月6日に広島市中区にオープンしました。設立の目標としてまず掲げられたのは大学と地域社会が直接交流する場となるということでした。「学生も研究も社会の中でこそ真に鍛えられる」という強い思いがその原点にありました。

広島市内の中心地の一角に突然現れたこの施設は、オープン当初からユニークな試みとして話題を集め、新聞やテレビなどマスコミの取材がひっきりなしにありました。地域のみなさんの応援や関係者の方々の地道な努力もあって、

オープンして早々と10ヶ月目には入館者が1万人を越え、20ヶ月目の今年4月には2万人を突破しました。

2 大学と地域が交わる拠点

立町キャンパスは大学、高校の情報センター的な役割とともに、市民向け公開講座、学生の卒業研究発表会、学生サークルの会議など大学のサテライト・キャンパスとしての役割も担っていますが、一方で地域の活性化への貢献も当初から大きなテーマとして掲げていました。そのため、高校生のサークル活動、地域のグループの集会や研究会も応援してきました。サロンにはピアノもあり、希望があればミニコンサートも可能です。映画の評論で活躍されている鈴木由貴子さんによる講演会「シネマ・トーク」も定期的を実施され毎回好評です。

また、インターネット接続のパソコンも置いてあり、学生の就職活動にも配慮しています。サロンは学生や一般の方の休憩や待ち合わせにも利用されています。

3 今までの主な実績

(1) 研究・教育の場

- 卒業研究発表会
- ゼミナール
- 新入生オリエンテーション

(2) 大学と地域社会の交流

- 市民公開講座
- シネマ・トーク
- HEROによる教育交流講座
- サロンコンサート
- 技術シンポジウム
- 社会調査士資格取得講座
- 工学部・情報学部クリスマスフェア

(3) サークル活動の成果を披露する場

- 学友会学外展
- 教職員写真展
- 広島県高等学校総合文化祭
- 広島国際学院高等学校アンサンブルコンサート



卒業研究発表会



オリエンテーション



サロンコンサート

(4)国際交流と平和への取り組み

- たてまちせこへい美術館（広島高校生平和ゼミナール）
- イラク写真展
- セミパラチンスク支援ユネスコ大使来日記念講演会
- 平和ピアノコンサート（大学主催・広島市国際平和推進部協力）
- モントリオールの日協賛事業（広島カナダ協会主催・大学協賛）

(5)市民に学習の場を提供・地域貢献に一役

- シンポジウム「自然災害と国際協力を考える」
- 経済セミナー「元気を出せ！広島経済」
- クラリネットセミナー&ミニコンサート
- 子育て支援講演会
- あかり展
- 文化講演会「新聞とテレビの間で」



写真展



講演会

3 将来に向けて

オープンからおよそ2年たち、立町キャンパスの存在は社会的にも広く知られるところとなりました。すでに立町キャンパスは地域に根付いた施設に育っています。大学と地域の交流は徐々に成果をあげつつありますが、大学にとっても地域にとっても、立町キャンパスはまだまだ潜在力をもっています。学生と地域の方々との直接の触れあいは学生に驚くほどの自信を与えます。公開講座では講師の方が市民のみなさんから教えられることもあります。今後、地域と大学の地道な交流の積み重ねが、地域と大学に新しい可能性をもたらすものと期待しています。

立町キャンパスのホームページ

<http://www.hkg.ac.jp/~tatemachi/>

住所

広島国際学院大学 立町キャンパス
〒730-0011 広島市中区基町13番7号
E-MAIL : tatemachi@office.hkg.ac.jp
電話 082-212-1651



HERO

施設の概要

ホ	ー	ル	130㎡	自販機コーナー
講	義	室	67㎡	事務室
会	議	室	41㎡	ミーティング室 61㎡
サ	ロ	ン		第1・2セミナー室 29㎡
喫	煙	室		



高校生コンサート



主任教授就任にあたって

にしむら まさふみ
電気電子工学科 西村 正文

かつて「電気」といえば発電、モーター、トランジスタといった固いイメージがありましたが、今ではたとえばコンサートの音響技術、エレキギター、アンプとスピーカー、舞台照明までも電気電子工学の重要な分野であり、我々の守備範囲は音響・画像、新エネルギー、ロボット、オートメーション、コンピューター、通信・・・と気が遠くなるほど広がっています。おかげで就職は好調ですが、なにをどのように学ぶかが問題となります。

電気電子工学科では、まず電気回路とコンピューターの二つの基礎をしっかりと身につけることをめざします。そして講義よりも実習・体験を重視しています。1年生から電気自動車、サウンド技術、ロボットのようなミニ研究の体験を通して「電気」を学んでいくこともできます。しかし、これらが効果をあげるには、科に情熱がみなぎっているかが鍵となります。さいわい、この科では学生も教員もたいへん元気がいいので、この点は主任としては楽観しております。



高校教頭就任にあたって

おぎの つぐお
荻野 次夫

大学を卒業後すぐ本校に着任して早37年の歳月が流れました。国語の教員として、生徒たちとの様々な人間ドラマを繰り広げながら、これまで教壇に立ってまいりました。その間クラス担任として九度卒業生を送り出しました。途中校名変更を二度経験しました。クラブ活動では野球部、自転車部等の顧問として生徒たちとともに過ごしてまいりました。

ところが、突然この4月から教頭という大役を拝命することになりました。緊張と不安の中で現在教頭席に座って、教職員の皆様に支えられながら毎日頑張っています。

個人的な大きな夢は、自らが作詞した本校の校歌が甲子園の空高く響き渡ることです。

まもなく、創立80周年を迎える伝統ある本校を、地域の人たちに支持され、応援される学校にすべく、教職員一体となって努力してまいりたいと思います。本学院に関係されるすべての皆様方のご指導ご鞭撻よろしくお願いたします。

はじめまして～新任教職員挨拶

まだ やすひろ
間田 泰弘
機械工学科教授

主に技術教育・工業教育を担当させていただいています。我が国は技術立国と言われていますが、技術の意義や教育が産業のためだけでなく、人の成長という視点からも理解されることを願っていますので工学とのご縁をうれしく思っています。



しんかわ ひでのり
新川 英典
バイオ・リサイクル学科教授

本年3月まで広島大学でバイオテクノロジーの講義、化学や遺伝子工学の実習を担当しておりました。専門は、生物の遺伝子(DNA)やタンパク質など分子のレベルで生命現象を研究する分子生物学です。本学の学生さんが遺伝子研究の知識や技術を習得するのにお役に立てればと思っております。



やまさき かつひろ
山崎 勝弘
バイオ・リサイクル学科講師

本年3月末まで広島市の外郭団体に在籍し、バイオ産業の振興や地域の産学共同研究を推進する業務を担当しておりました。専門技術分野は表面技術です。これまでの経験を活かして、即戦力となる技術者の育成に微力を尽くしたいと思っております。



なかむら まさよし
中村 格芳
バイオ・リサイクル学科講師

本学にて機械加工に関する研究を行い、1年前に博士号を取得しました。本学の卒業生であるという経験を活かせるように、本学で学び感じた事を学生に伝えられるよう努力したいと考えています。まだまだ経験不足でご迷惑をおかけすることと思いますがよろしくお願いたします。



ふしみ きよか
伏見 清香

情報デザイン学科助教授

愛知から来ました。愛知県の審議会委員や選考委員を続けて行っておりますので、本学の広報活動にもなれればと思っています。専門はデザインで、情報空間と実空間のデザインによる融合の研究を進めています。よろしくお願いたします。



きたいち のりこ
北市 記子

情報デザイン学科講師

こちらに来る前は、7年ほど関西の芸術系大学で教えていました。専門分野は映像デザインです。作品発表等、学生の皆さんが積極的に外部へ向かって情報発信していけるようサポートしていきたいと思っています。よろしくお願いたします。



さこ かつり
迫 勝則

現代社会学科助教授

32年間マツダで働いていました。自動車のマーケティングだけでなく、いろいろな分野の研究に取り組みたいと思っています。キーワードは「社会に貢献できる人材の育成」です。若い人たちの交流も楽しみにしています。



おくその ひでき
奥園 秀樹

現代社会学科助教授

大学以来16年ぶりの広島生活となりました。報道機関での記者を経て、6年前から研究者として働いています。韓国を研究対象としていますが、中でも政治や外交、安全保障を通じて、韓国と韓国人に迫ってみたいと思っています。



やまだ ようこ
山田 陽子

現代社会学科講師

この度、現代社会学部に講師として赴任いたしました山田です。まだまだ若輩者ですが、学生の皆さんに社会学と社会福祉のおもしろさを伝えていけるようにがんばります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願申し上げます。



ちな ひろし
知名 宏

自動車工業科教授

4月から短大教員として働いております。25年間のメーカー勤務の経験を生かして実社会の厳しさを少しでも伝えることができればと、根気よく皆さんに対応しています。この方面の経験が乏しいので皆様のご支援、ご指導をよろしくお願いたします。



あわた ゆうじ
粟田 勇樹

自動車工業科講師

縁あってこのたび自動車工業科の講師となりました。20年間経験した整備知識・技術と社会での規律も含め1つでも多くの事を伝え、学生諸君が職場において整備士として中心的な存在になれる様指導していきたいと思ひます。



くすのき りょうじ
楠木 良治

自動車工業科助手

この度自動車短期大学部に入りました。学生に教えるという事が初めての事で不安等ありますが、僕が教えた事が実務に就いた時に少しでも役に立つようサービスマン時代に学んだ知識と経験等も伝えていけたらと思ひます。



ひろめ けんた
廣目 健太

高校教諭

思えば小学校の卒業文集に『英語の先生になりたい』と書きました。いまその夢が現実のものとなり、大変幸せに感じています。憧れの職に就けたありがたさと、親や他の先生方のサポートに感謝をして、これからの担任業や教科指導に励んでいこうと思ひます。そして生徒の「道標」となれるように、全力を尽くしていこうと思ひます。



いしはら ひろき
石原 裕樹

高校教諭

昨年度まで嘱託講師として勤めさせていただきましたが、今年度から専任教諭として採用されました。今年度も昨年度と同様、周りの先生方や生徒からいろいろ学んで教員として成長できるように、と同時に生徒の幸せのために頑張りたいと思ひます。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



うえだ やすよ
植田 康代

高校教諭

本校での勤務は6年目になります。担当教科は国語全般と芸術(書道)です。このたび専任教諭として採用されるにあたり、新たな気持ちで生徒と共に元気に突き進んでいくつもりです。どうぞご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願申し上げます。



もちつき けいし
望月 恵司

高校教諭

今年度から専任教諭として迎えて頂きました。初めて担任を任せられ、毎日、悪戦苦闘しています。無限の可能性を秘めた生徒たちに、生きる希望と生きる力を与えられるように、体当たりで頑張ろうと思ひます。よろしくお願いたします。



よしだ いつろう
吉田 逸郎

高校教諭

今年度より、普通科1年9組の担任をさせていただくことになりました。生徒に関わる時間も多くなり大きな責任を感じています。しかし、そのような中で私の個性を生徒につけ、生徒一人一人が個性を伸ばしていくための手伝いをしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。



よこはた まき
横畠 真希

高校教諭

今年から教諭として勤めさせていただくようになりました。最近担任の仕事やら初めて挑戦する授業やらで、毎日があっという間に過ぎていますが、こういう経験が出来ることをうれしく思い、色々な事に挑戦していきたいと思ひます。先生方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



むろおか みき
室岡 美希

養護教諭

今年度より広島国際学院高等学校の保健室で勤務する事になりました。私の役目は、生徒が健康で楽しく高校生活を送る事ができるように、サポートする事だと思ひます。諸先生方には、ご迷惑をおかけすることと思ひますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いたします。



なかた よしゆき
中田 義幸

総務部管財課係長

昨年36年間勤務いたしました石油会社を早期退職し4月からご縁をいただきました。前職では一貫して管理畑を担当して来ました。この間学んだことを本学院で活かして行く為に、努力と創意工夫をモットーに頑張りますのでよろしくお願いたします。趣味はカラオケと写真撮影の為の散歩です。



新しい音響実験室もお目見え

工学部

オリエンテーション

ビデオ鑑賞・新しくなった音響実験室もお披露目 — 電気電子工学科

コンサートホールや劇場の構造は多種多様で、どのような環境でもクリアな音質を得るためには、高度な音響の技術が必須である。マイクやアンプのような音響技術は電気電子工学と深くかかわっており、現場では音響エンジニアの需要も高まっている。これを受け、電気電子工学科では来年度より音響技術教育を行う予定であり、そのため音響実験室を一新した。新しい音響実験室（音響・映像スタジオ）には液晶プロジェクタ、大型スクリーンをはじめ録音・録画装置、照明機材、イコライザー、ミキサー、画像編集装置など音響と映像を総合的に実習・習得できる本格的なシステムを導入した。



電気電子工学科の新生オリエンテーションはこの音響・映像スタジオを利用して行った。はじめに音響と電気電子との関わりについて簡単な説明の後、実際の映像や音響を体験した。その後、同じ場所で昼食、懇談と楽しい一時を過ごすことができた。今後、このスタジオでは学生バンドや放送通信研究会といった学生サークルとのコラボレーションも予定しているが、新生が最初の利用者になり電気電子工学科がより身近になったものと思われる。

ボウリングで交流 — 機械工学科



過去3回の新生オリエンテーションは上瀬野キャンパスのグラウンドでソフトボールを行なっていたが、今回は趣向を変えてボウリング大会を実施した。

まず、中区紙屋町「中国飯店」に集まり、教員紹介など簡単なミーティングの後、中華料理で昼食会をした。その後、立町キャンパスの前を通過して、中区八丁堀「パークレーン」に移動。新生49名（参加率98%）と教員14名が13レーンに分かれてゲームを楽しんだ。初対面に近い昼食会では少し硬さが見受けられたが、ゲームに入ると各レーンから歓声が上がリ、学生同士の弾んだ会話に教員も加わってたいへん和やかな雰囲気になった。スコア10位以内を表彰してゲームは終了した。予算の関係で2ゲームとなったが、後のアンケート結果によると、過半数以上が「満足した」と回答した。当初目標である「新生と教員の親睦を図る」は十分に達成できたと思われ、これが教育に反映されることが期待される。

アットホームな歓迎パーティー — バイオ・リサイクル学科

4月8日（金）に中野キャンパス学生会館で開催された“バイオ・リサイクル学科新生歓迎パーティー”には、新生約55名、2年生22名、教職員13名の計90名が参加。パーティーを通じて、新生、在学学生、教職員とのアットホームな交流が実現した。

当日は早朝から2年生の有志者がパーティー会場に集結し、会場設営、新生受付準備を担当した。また、大学院生2年（物質工学専攻）の本田君の両親が経営する料理店から100人前の料理を提供していただき、歓迎の気持ちだけでなく、お腹の中も十分満たすことができた。



新生の皆さんには、いきなり自己紹介をお願いし、緊張させてしまったが、これからの友達作りや先輩、教員とのコミュニケーションをとる上で、重要な情報をお互いに知り得たのではないかと思います。このパーティーを通じて得られた人とのつながりを、これからの学生生活を充実させるためにも有効に活用してもらえればと教員一同願っている。

情報学部 大学院へ7人進学

平成16年度の情報工学科の大学院進学者は国立大学に2名、当大学の大学院に5名だった。以下に示す進学先で、新しい研究題目に取り組んでいる。

横山 佳奈

広島大学大学院工学研究科
複雑システム工学専攻博士課程前期複雑システム計画学
研究題目:生産情報システムに関する研究



横山さん

いままで勉強してきた情報工学の分野を生かしつつ、生産管理の研究を行っていきたくと考えています

大石 和学

長崎大学大学院生産科学研究科
電気情報工学専攻博士課程前期情報システム系
研究題目:フラックス測定に関する研究



大石君

目標を出来るだけ早く見つけ、その目標を達成するためには自分が何をすれば良いかを考える

広島国際学院大学大学院工学研究科知能情報専攻修士課程

氏名	研究題目	研究室
石川 従統	数値シミュレーション手法に基づく花粉補修器の開発	青井研究室
益田 大輔	無線ICタグと連携した情報管理システムの構築	青井研究室
辻 大介	知能情報処理の視覚化	朱 研究室
李 莉	情報伝達の比較	朱 研究室
馬 湧	コーパスに基づく日中文章作成支援システムの開発	趙 研究室

オリエンテーション

手打ちうどんに心打ち解け 情報工学科

4月7日～8日にかけて、広島市三滝少年自然の家で1泊2日のオリエンテーションを開催した。堅苦しい学科の説明や講義の話を極力なくし、学生と教員が寝食を共にすることに重点を置いた。

第1日目、中野東駅より可部線三滝駅まで電車で移動した。三滝駅からは、心臓破りの坂を20分程度かけて登り、目的地の広島市三滝少年自然の家へと辿り着いた。到着後、新入生と教員・上級生をグループに分け、炊飯場でカレー作りに挑戦。日ごろ便利な生活に慣れた学生・教員のやることなので、飯盒で炊いたご飯はこげたりおかゆになったり、カレーにいたっては水分が多くてスープのようなものもあった。だが、おかげでその夜は話が弾んだとか。

2日目は朝からうどん作りに挑戦した。ほとんどの学生・教員はうどんを粉からこねて作る経験をしたことがない。前日のカレー以上に困難が予想されたが、どのグループもとりにあえずどんらしきものになった。しかし味には大きな差があり、グループどうして味見して楽しんだ。

最初は戸惑いのあった学生たちも、食事の準備が進むと、打ち解けてゆく様子がおはっきりと感じられた。これから一緒に大学生活を送る仲間を知るよききっかけになったのではないだろうか。



うどん作り

アニメ映画を観て感動! 情報デザイン学科

情報デザイン学科では①アニメ映画「シャーク・テイル」鑑賞会②昼食会③学科紹介とゲームによる交流会の3部構成でオリエンテーションが行われた。

朝9時、新入生、2年生ボランティア、教員の100名近くが「立町キャンパス」に集合。アニメ映画の鑑賞は「教育講演会」の一環で企画され、初めにシネマエッセイスト・鈴木由貴子先生(中国新聞情報文化センター)による講演(part 1)が行われた。アニメ映画の世界的な流れと「シャーク・テイル」の位置づけについて解説されてすぐ、「広島スカラ座」に大移動した。大スクリーンによる映像と良質のサウンドの中で最新アニメを満喫、感動したとの声が多数だった。

映画鑑賞後は再び立町キャンパスにもどり、ボランティア学生も一緒においしい弁当を頂きながら懇談のひとつきを過ごした。午後教育講演会(part 2)が開かれ、鈴木先生が世界のアニメーション映画におけるディズニー、ピクサー、ドリームワークス、更に日本のスタジオジブリの特徴や映像技術の進歩について解説された。

その後は学科のガイダンスが行われ、学生が4年間で学び、個人の可能性を磨いて行く方向について説明があった。最後は2年生のボランティア学生を進行役に、恒例のビンゴゲームで盛り上がった。学生生活の始めとして、本物の映像文化に触れる企画は大好評だった。



作品解説(この後映画館へ)

地球はアートだ アース・デーイベント

現代社会学部



「フィールド・ワークで社会貢献」

現代社会学部では、学生がフィールド・ワークによって社会の実情を調査したり、社会参加・貢献活動を体験したりする授業や活動を進めている。

こうした取り組みには、「地球のことを考え行動しよう」という4月の「アース・デー」に関連するイベントや、「環境を考え行動しよう」という6月の「環境月間」に開催されている様々な取り組みの一環としても位置づけているものがある。

「アース・デー」では、「eARTh DAY」にちなんだアート活動として、地球や子どもや環境に関するポスターの作成や展示に参加した。

また、6月5日の「世界環境デー」では、広島市安芸区で取り組まれている「ふるさと瀬野川づくり」の一環として地元の瀬野川の支流、榎山川で開催された「ホテル鑑賞会」に参加。ホテルを見るだけでなく、川や水、自然や生態などについても考えてきた。

これからも阿戸町で農林業、自然、歴史、生活文化などの資源を活用して、地域住民と都市住民が交流しながら、里山を再生し、地域づくりにつなげることを目的とした、地元・参加市民・行政の協働による「里山あーと村」で、子どもたちのキャンプ、ジャズ・コンサートなどのスタッフとして活動する計画である。

こうした経験をふまえ、今後はボランティアなどの地域貢献活動を展開していくことも検討している。



●●● 新入生歓迎オリエンテーション ●●●

入学式の翌4月6日（水）、新入生歓迎会が開催された。まず、午前11時から瀬野川公園に全員でハイキングに行き、陽春の下でのお弁当と和やかな歓談により、新入生同士が打ち解け合うことができた。

引き続き午後1時より、上瀬野キャンパスのグラウンドでソフトボール大会が行われた。新入生と上級生、教職員がそれぞれチームをつくり、トーナメント形式で熱戦を繰り広げた。元気一杯の新入生や上級生の熱いプレーが随所に見られ、それに触発された（気持ちは若いつもりの）教職員も「珍プレー」を連発するなど、グラウンドには終始歓声が響いていた。



現代社会学部恒例の行事としてこれからも続いていくことであろう。



4年生田中ゼミチームが総合優勝を、また新入生チームの優勝を柿本ゼミがそれぞれ勝ち取り、学部長杯を授与された。3回目となった大会の運営には、今回も多くの上級生がボランティアとして関わった。

さらに当日は本学の表千家茶道愛好会によるお茶会も開かれ、新入生の学生生活が実り多いものであることを願いつつ、心を込めたお点前で新入生をもてなした。

新入生と上級生、教職員が触れ合う場となる歓迎会は、



「1級整備士筆記試験」は修了生4名全員合格
(全国の合格率=24.5%)

'05年3月の自動車整備士国家試験の実績は次のとおり。

(1) 1級整備士

第1回専攻科修了生4名は筆記試験に全員合格した。引き続き5月8日に行われた口述試験に2名が合格し、晴れて「1級整備士」を取得した。

(2) 2級整備士

2級ガソリン：94.6%

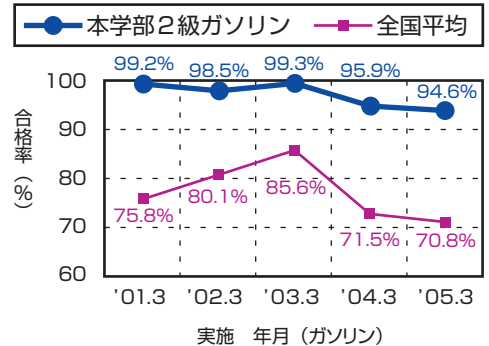
2級ジーゼル：100%

2級整備士試験は、前期講習、特別講習、習熟度別クラス編成、勉強会、個人指導など学生の学力にあった木目細かい指導により、高い合格率を上げている。

《自動車整備士への最短コース》

- 1級受験資格……専攻科（整備工学専攻）修了
- 2級受験資格……自動車工業科卒業

専攻科修了生2名



2級	年月	01.3	02.3	03.3	04.3	05.3
	卒業生	126	132	135	147	150
ガソリン	受験者	122	132	135	145	148
	合格者	121	130	134	139	140
ジーゼル	受験者	—	37	40	40	48
	合格者	—	37	39	32	48

あなた、焼く人。私、食べる人。

下宿生交流会

5月14日(土)、「バーベキューを食べて友達づくり：肉ニク肉のオンパレード」と銘打って、本年度第1回の下宿生交流会を瀬野川公園デイ・キャンプ場で開催した。学生32名と教職員7名の過去最高の参加者があり、肉を買い足す嬉しい悲鳴となった。今回初めて青空の下に飛び出し、カッカと燃える炭火の熱さに手を焦がしながら、ひたすら肉をほおばり黙々と食べるに食べまくる学生に、教職員は大忙しで火箸を握りっぱなしの焼く人に徹する有様となった。ただで貰い受けたドラム缶を溶断し、台も手作りの急造バーベキュー・セットがばっちり決まり、教職員の陰の努力と熱意が感じられた。

野菜を切ったり大釜で四升の米を薪で炊いたり炭火をおこしたり肉や野菜を焼いたり、生活感を味わってもらおう狙いもあったが、太陽と炭火の熱さのせい、満ち足りた時代のせい、自ら臨機応変に動く学生は少なく、お客さんの姿が気になった。この経験を



踏まえて、来年は2年生が1年生をリードする積極的な雰囲気を作って欲しいものである。

後援会総会開催

4月16日(土)短大教室にて、20数名の保護者の出席のもと、短大後援会総会が開催された。立島会長、学長、理事長からの挨拶の後、16年度収支決算報告、17年度予算案並びに役員改選等の議案について審議、承認された。最後に西山新会長より挨拶があり、総会は無事終了した。

引き続き、短大部長から短大部の現状及び取組みについて説明がなされた。特に就職状況に関する説明は保護者の関心が強く、図を用いた説明も大変好評であった。その後、希望者による保護者とチュータとの個別の懇談を持って総会行事を終了した。

新役員は次のとおり。

職名	氏名
会長	西山 勢津子
副会長	為 数 明
監事	岡田 友晴

広島駅南口コンサート 吹奏楽部



4月29日に、本校吹奏楽部による広島駅南口コンサートが行われた。毎年春と秋に行っているこのコンサートは、今では恒例になり、日ごろの私たちの活動を知っていただく非常にいい機会となっている。今年は総勢98名で、元気なステージを展開した。

演奏したのは、「サウンド・オブ・ミュージック」や「A列車で行こう」、「石原裕次郎メドレー」や「ユーロビート・ディズニーメドレー」などアンコールも含め全9曲。

歌あり踊りあり、スタンドプレーありで、特に「ユーロビート」の踊りや「石原裕次郎」のソロ演奏には拍手喝采で、通りすがりの人も思わず足を止めるほどの大盛況であった。



🌸 晴れやかに 新入生466人 🌸

4月8日、例年に比べて1週間近く遅れて咲き初めた今年の桜は、まさに新入生たちの入学を祝福するかのごとく、満開の姿で瀬野川沿いをあでやかなピンク色に染めていた。

そんな中、制服姿も初々しい新入生466人を迎えて、晴れがましくも厳粛なうちに第59回入学式が挙行された。

新入生代表の宣誓、長野政義校長の式辞、鶴素直理事長の祝辞、保護者代表の挨拶と続いた。それからオーストラリアからの長期留学生ライアン君が教頭から紹介され、場内が少し和んだ。

最後に12クラスの担任教師が紹介されると、壇上を見上げる新入生たちの熱いまなざしがそれぞれの担任に注がれた。

そして、本校吹奏楽部が演奏する校歌のメロディに乗り、担任を先頭に颯爽と各クラスへと分散していった。



今年も長期留学生来校

—オーストラリアの姉妹校から—



今年度も姉妹校から長期留学生がやってきた。普通科2年生に在籍し、来年の1月上旬まで、英語・現代文・書道・陶芸・音楽・体育・剣道など、学年・コースを越えて履修する。しっかりとした分かりやすい発音の日本語で次のようにスピーチをした。

「みなさん、こんにちは。ライアン・ジョーンズと言います。私は16歳です。誕生日は7月22日です。オーストラリアのジーロングから来ました。ジーロングではグローブデイル・カレッジに通っています。私の趣味はスポーツと音楽です。日本の食べ物とテレビが好きです。「うたばん」は、とてもおもしろいと思います。でも、本当はよくわかりません。2月の終わりに日本に

来て、3月は東京の日本語学校に行きました。でも、時々私の友達には学校に行かないで、原宿や新宿に買い物に行っていました。ぼくは、ちゃんと勉強していましたよ。将来は通訳になりたいです。一緒にたくさん日本語を話しましょう。たぶん、私の日本語は少しずつうまくなると思います。たくさん友達をつくりたいです。そして、私は何かクラブに入りたいです。私は10ヶ月間、みなさんと一緒に勉強することを楽しみにしています。どうもありがとうございました！どうぞよろしくお願ひします」

入学宣誓式



一同互礼

平成17年度大学・短大合同入学宣誓式は、4月5日(火)午前10時から高城体育館で行われた。当日は好天に恵まれ、例年より開花の遅れた桜の花が祝福するかのようにはじめられた中の入学宣誓式であった。

会場そばのグラウンドには目にも鮮やかな黄色の愛らしい車がある。この日のために用意された電気自動車である。ものづくりの粋を集めた展示で新入学生の学問への興味を喚起するのに一役買っていた。



電気自動車が新入生を迎える

式は、今村学長の入学許可宣言に始まり、新入学生の宣誓と続いた。学長の式辞に次いで鶴理事長、岡田理事より祝辞が述べられ、盛会のうちに終了した。

今村学長は、教える者も学ぶ者も共に成長する意味の「教学相長」という言葉を示し立派な社会人となるよう新入生を励ました。

また、鶴理事長からは、「相手のいたみを知る人になる」ように、岡田理事からは「自分の道を見つける」ようにそれぞれ励ましの言葉があった。

本年度の入学者は、大学 362名、短大 130名、大学院 13名だった。

恒例の「入学祝賀茶会」も図書館横で催され、新入学生や保護者らが次々に訪れた。鶴理事長の筆になる「一期一会」の短冊がかけられ、現代社会学部の谷口先生が手ずから焼いた茶器も利用に供されて、お祝いの雰囲気を盛り上げた。汗ばむほどの陽気に一服のお茶がさわやかである。茶席に集う人々もくつろいだ様子で話に花を咲かせていた。



華やかな着物姿の茶道愛好会員と記念撮影する人も



好評 夕暮れコンサート

地域共同教育研究センター

地域の教育交流の一環として、芸術文化活動の支援を行うことがこのコンサートの目的である。立町キャンパスのサロンを会場として提供し、ピアノも活用している。

地域の方々にも足を運んでいただけるよう考慮し、開催時刻を夕方時間帯に設定。ライトアップされた「広島国際学院大学」の文字がガラス越しに浮かび上がり、幻想的な効果を演出する。

演奏者は近隣周辺の高校生および卒業生にお願いしている。広島国際学院高校・広島県立安芸府中高校・広島県立海田高校・広島女学院高校・比治山女子高校から出演。多数の現役高校生に立町キャンパスを通じ、本学の存在を示す一助となっている。中野在住のピアノ講師今井三千代氏を介し、毎回多彩な顔ぶれと楽器とをアレンジしていただく。

さらに、海田高校を経て大学に進んだ演奏者もこのコンサートには欠くことのできない存在である。楽器を奏でる彼女たちはとても美しく、夕暮れの街並みに映え見事な空間を生み出している。しかも毎回趣向を凝らし、彼女たちの若い感性で取り組んだ難解な大作に挑んでいる。プログラムには本格的な曲目解説を施し、音楽鑑賞の手ほどきも試みている。

また、照明効果によりさらに華やかな空間を演出しているのが、センターを支える二人の部会長である。ビデオ映像を編集しDVD制作を手がける等、センターを挙げて取り組む。年3回のコンサートであるが、学内の協力者と立町キャンパス職員の協力に謝意を表す。

第6回「鎮魂の夕べ」は8月6日開催。



イギリスふうせつがき 英吉利風説書 (その2)

車いすの大学生、
英国・リーズ大学にて
ただいま猛勉強中

現代社会学部4年

瀬戸口 潤之介



リーズ大学全景

5月、英国は一年で最も華(花)やかな時期を迎えました。色とりどり極彩色の花が街中至る所に咲いています。青い空、白い雲、柔らかな日差し…。青々と茂る芝生の上には多くの人。ビールを飲むもよし、サッカーに興じるもよし、はたまた討論する者あり。私は課題を提出すべく奮闘中です。思い起こせば一年前、ろくろく英語もできぬまま飛び込んだこの国。時間だけが刻々と過ぎていきます。自分で動かなければ何も始まりません。いろいろな人の助けを借りながら何とかやってきました。かつては「日本のほうが絶対いい国だ」なんて思っていたのですが、この国も悪くありません。できればもう少し居たいと思ったりもします。

さて、私はここで学部生として専門講義を受けました。特に重点的に学んだのは「障害学」です。障害者と社会の関係を解き明かす学問です。最初に目黒先生からこの分野を紹介されたとき、正直あまり乗り気ではありませんでした。それでもやってみると面白いと感じました。『「障害者」が「障害者」なのは、社会や人々、障害者自身の態度こそが課題である』。なるほど私もそう思いました。いつまでも殻に閉じこもっては何も変わりません。「声を上げる」といっても、ただ声を「上げた」だけでは駄目なのです。どんな風に、誰に向かって何のために「声を上げる」のか考えなければなりません。ここは雲の多い割に「闇雲(あうん)」の通じない国なのです。

最後に、今回ご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。このようなすばらしい経験を積むことができたのも皆様のご協力があってこそです。未熟者ですが、今後ともご指導のほどよろしく申し上げます。

留学生の声

ゼロからのスタート、困難乗り越え上達した自分発見

工学部情報工学科4年

でん 田

じゅんか 順花



いつの間にか日本に来て4年もありました。

中国長春の大学で友達に日本の広島国際学院大学の情報を聞いて、非常に興味を持ちハルビンに行って入学試験を受けることにしました。大学の合格通知書をもらう前は、日本に留学するということが実感できなかったのですが、真剣に考えた時、私はもう日本の大学にいました。

日本に来る前、日本はいったいどのような国か好奇心いっぱいでした。友人から日本は優しい国とも言えるし、厳しい国とも言えると聞きましたが、自分で世界先進国としての日本を体験してみたいのが私の本当の気持ちでした。

最初、日本での生活はなかなか馴染めなかったです。言語の問題で授業が理解しにくかったし、今まで親からの面倒で生活したため、最初、日本での自立生活に適応できにくかったわけです。4年の大学生活で一番有り難かったのは大学の先生と先輩でした。彼らの助けがあってこそ今の私が存在するのです。すべてゼロから始まりましたが、その間どんどん慣れてきて、今はかなり上達している自分

を見ることができます。一番楽しかったことは卒業論文で皆さんと一緒に勉強し、進歩していくことでした。卒業論文を書きながら、普通の授業と違って、自分で進んでやるのが大事であるということも分かりました。

4年間の生活を通じて日本のことに一層深い理解ができるようになりました。町はきれいだし、人が優しいし、文明と経済が相携えて進んでいる日本は正に先進国であると感動します。私はこれからもずっと日本で生活したいので、4年生になって日本で就職することを考えました。

現在、中国にソフトウェア関係の支店のある会社に就職が決まっています。今後、日本と中国の交流の推進に尽くすのが私の夢です。

栄冠に輝く 広六大学球 完全優勝



繁田監督を胴上げする選手たち

広島六大学野球2005年春季リーグ戦で本学硬式野球部が優勝、全日本大学選手権への出場権を獲得した。

5月15日(日)の対広島工業大学戦では先取点を上げつつも5回に一度リードを許した。だがその直後に3点を奪って再び逆転、さらに2点を追加して逃げ切り、3季ぶり3度目の優勝を果たした。過去2回リーグ優勝(秋季)したものの、中四国大会の壁に阻まれてきた。今回は全チームに勝ち点を上げる完全優勝で、ついに神宮への切符を手中にした。広工大最後の打者が打ち取られると緊迫した雰囲気が一変、ベンチを飛び出した選手たちと応援団の歓声がグラウンドに響き渡った。胴上げされ宙に舞う繁田正義監督は悲願達成に顔をほころばせ、ナインも全身で喜びを爆発させていた。

おめでとう! MVP受賞

最優秀選手賞

2度目のベストナインとダブル受賞

いんぜん ともや
隠善 智也 選手



5月22日(日)に春季リーグの全日程が終了、閉会式と表彰式が行われた。最優秀選手は本学3年の隠善智也外野手(広島国際学院高校出身)が受賞。2度目となるベストナイン賞とのダブル受賞である。なお、同じく3年の穴見和也捕手(山陽高校出身)も今回初めてベストナイン賞を受賞した。



試合の様様(広工大戦)



悲願の神宮いざ見参

全国大会



目指せ一勝

全日本大学野球選手権は6月7日(火)に開幕、広島国際学院大学ナインが初めて神宮球場の土を踏みしめた。全国舞台に緊張しながらも選手たちは晴々とした表情。胸を張り堂々と入場行進した。大会2日目となる8日(水)の第一回戦で創価大学と対戦。観客席には広島から駆けつけた応援団が

陣取る。はつらつとしたプレーで熱い声援にこたえていた。

盛大に壮行会

5月26日(木)、ホテルセンチュリー21広島において、硬式野球部の壮行会が開かれた。部長・監督以下部員とその家族、同窓生、教職員など多数が列席。会場にはにぎやかな祝賀ムードに包まれた。リーグ戦優勝と初の全国出場を喜び合うとともに、全国大会での健闘を祈った。



初出場までの軌跡

昭和42年 広島電機大学開学、同時に硬式野球部発足

平成8年 秋季リーグ戦にて初優勝

広島六大学中唯一の優勝未経験チームを返上する

西村、作田、山口(現オリックス・バファローズ) 投手をはじめ、下崎、岡田、中野、小山、中元、山本の各選手が表彰を受けるという「電大野球部最強チーム」であった

平成11年 大学名を「広島国際学院大学」に変更する

平成15年 秋季リーグ戦にて2度目の優勝(大学改称後初優勝)

松井、天本(現四国アイランドリーグ) 両投手に加え、森岡、國信(現四国アイランドリーグ)を中心に「守り勝つ」野球に徹底した結果であった

2度の優勝とも中四国代表決定戦で東亜大学に敗れ、全国大会出場を逃した

平成17年 79回目のリーグ戦において3度目の優勝(春季リーグ戦では初優勝)

全チームから勝ち点を上げての完全優勝で、全日本大学野球選手権大会に初出場



<広島>	廿日市西	湯来南	<島根>	南陽工業
尾道商業	広島県瀬戸内	<三重>	出雲北陵	<愛媛>
賀茂	広島工業(県立)	日生学園第二	明誠	新田
広陵	広島工業大学	<京都>	<岡山>	<福岡>
西条農業	広島国際学院	京都学園	岡山理科大学附属	西日本短期大学附属
如水館	広島商業(県立)	<兵庫>	瀬戸	東筑紫学園
崇徳	広島商船高等専門学校	多可	<山口>	<宮崎>
竹原	宮島工業	<和歌山>	安下庄	延岡学園
戸手	三次	紀央館	新南陽	選手の出身校一覧
日彰館	向原	和歌山商業(県立)	徳山工業	

より質の高い教育へ研鑽の日々

平成16年度工学部・情報学部教育ミニシンポジウム

情報学部長 ひだか やすはる
檜高 靖治

「いい教育」はすべての教員が共有すべきという葉佐井前学長の方針から出発した本ミニシンポジウムの平成16年度報告会が3月9日(水)に行なわれた。優れた教育の種を特別助成して育成するもので、毎年度末に報告会を開催している。午前中は1年前に申請したテーマ(6件)の成果報告、午後は新年度の申請テーマ(6件)の発表が行なわれた。意欲的な発表が多く、教育現場が活性化していることを見てとることができる。

若い教員の意欲の高さが目立った。学生とともに学ぼうという姿勢から発想しているものが多い。教育内容を学生と効果的に共有する教育方法(技術)が現在の教育では重要なものと捉えられており、本ミニシンポジウムでもこの領域に関係する発表が目立った。大学内の雰囲気も次第に変貌しているように感じる。

すべての学生を「教える育む」姿勢をバランスよく普及させることが本大学教育の基本姿勢であり、本ミニシンポジウムの成果が各分野の教員によって最適化され、採用されるステージに進めていきたい。

平成16年度 工学部・情報学部特別研究成果報告会

学長 いまむら あきら
今村 詮

平成16年度特別研究成果報告会は平成17年3月10日(木)に、本学中野キャンパス10号館のマルチビジョン講義室で開催され、午前に7件、午後に9件の発表があった。

そのうち、昨年来の継続課題は10件、本年度よりスタートしたのが6件であった。このような研究成果報告会では常のことではあるが、予定どおりあるいはそれ以上に進展した研究成果報告がある一方、予期せぬ困難に遭遇して必ずしも順調な結果が出なかった研究もあった。しかし、この成果報告会で発表された研究を遂行してきた先生方は、それぞれできる限りの努力を重ねてこられたことが実感できる発表であった。

この報告会で発表された研究は、私の専門分野とはほとんど関係のない分野なので、私の感想はいささか独断と偏見に基づいていることをお許しいただきたい。

特に強い関心を惹いた研究をいくつか挙げる。内海助教授が発表した最近のソフトウェアと実験設備の進歩をうまく取り込んだ曲げ加工による成型法の研究。名水化学分析の結果に基づいた西条の銘酒と地質との関連を調べた佐々木教授らの研究。最近の遺伝子工学の手法を用いた微生物による有用物質の生産を目指した渡辺(昌)講師の研究。次世代高速スイッチングデバイスの開発を視野に入れたSiGe薄膜の長期にわたる出木講師らの基礎的研究などである。上記以外の研究も非常に興味深いものであったが、その紹介は紙数の関係で割愛せざるを得なかった。これらの研究のなかから、本学を特徴付ける研究に近い将来に現れることを期待したい。

高校より



生徒の交通安全活動に感謝状

ボールの贈り物に笑顔まろやか

昨年6月からサッカー部、硬式野球部の生徒たちが自主的に海田町内の数カ所に毎朝立ち、小旗を振って交通整理を行ってきた。その効果は次第に現れはじめ、町民から厳しく指摘されていた本校生徒たちの交通マナーも良くなり、トラブルも激減した。この活動が評価され、開始からちょうど1年となる5月31日、海田警察署から広島国際学院高校に感謝状が贈られた。贈呈式には荻野次夫教頭、サッカー部の古賀友博主将、硬式野球部の塩見恭平主将が出席。海田警察署の藤井明彦署長が荻野教頭に感謝状を手渡した。藤井署長は「他校でも同じ取り組みが行われるようになればいいですね。これからもしっかりやってください」と激励。安芸地区交通安全協会からはサッカー部と

野球部にボールがプレゼントされ、緊張気味の両主将に笑顔が戻った。

なお、高校の取り組みと贈呈式の模様が中国新聞および広島テレビで報道された。

校長率先 教師の登校指導

「おはよう」、「おはようございます」。明るい挨拶が交わされる始業前の情景。正門付近、国際橋で毎朝繰り広げられる教師と生徒たちとの言葉と目の会話。昨年4月から生徒指導部を中心に本格的に繰り広げられた本校教師集団による登校指導。

長野校長の姿も見える。校長自ら率先して毎朝の登校指導に出るのは本校としては異例のこと。「生徒に話しかけるのが楽しみ、校務に支障のないときだけ出るよ」と言うが、4月以降毎日出ている。傍らには教頭、そして教師集団。数年前に比べて遅刻が大幅に少なくなったのは言うまでもない。



毎朝の交通整理

この広報誌はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/~kikaku/kouhou/>

平成16年度決算はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/~keiri/kessan/>